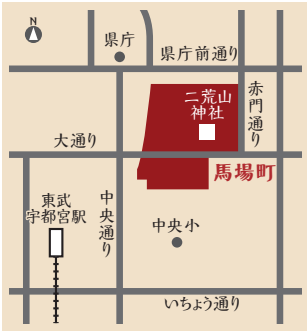
まち紀行

馬場町（ばばちょう）

現在の馬場通り1丁目辺り

古いまちの呼び名と
こぼれ話を紹介します

◀昭和30年ごろの様子（個人蔵）



この付近は、古くから二荒山神社の門前町として開けたところで、馬場先（ばばさき）（乗ってきた馬を止める所）であったことから、この町名が付いたといわれます。

馬場町は二荒山神社との縁が深く、第一番神祇（じんぎ）町という大変名誉な役割を担っており、祭礼の際には町内から護衛の役員を何人も出せていましたが、現在では住民が少なく、十分な役割を果たせていないのが残念です。

そんな馬場町ですが、かつては仲見世や映画館があり、「宮さ行くべ＝バンバの仲見世に行こう」や「泣く子も笑うバンぶら」という言葉が生まれるほど人々が集い、宇都宮一・二を争うにぎわいを見せていました。

バンバ広場で行った人気音楽バンドの演奏会では、演奏中止になるほどたくさんの人が集まりました。また、町内を周回する競歩大会では、市民の他、自衛隊の参加もありました。今以上に、まちなかで行われるイベントの注目は高かったのだろうと思います。

現在も、商業のまちとして各店舗とも工夫を凝らして営業していますが、各店主同士の絆が深まり、商店街一丸となった、活気ある馬場町を取り戻していきたいと思っています。

馬場町自治会 会長
福上　孝仁さん